

こんにちは いつもお世話になっております

# 三栄です

西日本での豪雨災害で被害に遭われた皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

七月月上旬に発生した西日本豪雨のニュースをご覧になって、皆様心を痛めておられたことと存じます。当社の業界の仲間やヤードや社員のご自宅なども被災されたと聞きましました。三年前の常総市での豪雨災害の際は、当社茨城営業所の所長宅始め関係者も被災し、全国の皆様に助けて頂きました。今回、当社で何かできないかと考え、まずは、所属する東多摩再資源化事業協同組合を通して義援金を集め、日本赤十字社に送金致しました。



大阪、岡山、広島の各地からいらした方々と5人1組で作業しました。

加してまいりました。災害ボランティアセンターから被災エリアの真備町地区にあるサテライトセンターに向かう道中、小田川の橋を超えると景色が一変しました。二階部分まで水につかっていたわかる住宅街は、道路も木々も黄土色になっていて、一部倒壊した家屋があったり、水につかっていた家財道具などが家の外に積まれています。幹線道路沿いや鉄道の高架下などにも被災瓦礫が積み上げられていました。

私たちが伺ったお宅では、流れてきたタイヤに

掴まって難を逃れたそうです。ここでは、主に床下の泥の掻き出し作業をさせて頂きました。この地区は土壁のお宅が多く、水につかって壁が崩れてしまっていました。最終的には取り壊す予定と伺いましたが、心を込めて作業させて頂きました。



床下の泥の掻き出し作業の様子

暑の中、水は出るようになったものの飲めない、電気が止まっているので信号や自動販売機も使えない、そのような状況の中では、被災された方々も肉体的にも精神的にも疲労の限界で、今後とも支援の手が必要だと思えました。一方で、倉敷市内

でも美観地区始め被害はないエリアでも、観光客が激減し地域経済に打撃を受けている話も聞きました。今後は観光振興やふるさと納税など違う形でも引き続きご支援が出来ればと考えております。そして、社内でもBCPの策定を急いでいます。もはや対岸の火事ではなく、日本全国どこでも災害に遭うリスクがあります。まずは社員の安否を確認し、地域の復旧作業に貢献しつつ、一日でも早く通常のリサイクル業務が再開できるような体制作りをして参ります。

### 避難所体験に当社から段ボールを提供しました。

七月八日に開催された東村山つ子育成塾の避難所体験に当社から段ボールを提供させて頂きました。あえてサイズがバラバラの段ボールを用意したのですが、子供たちは創意工夫をしながら秘密基地感覚で避難スペースを作成していました。

八月五日には、東久留米市の小学校で開催された、お仕事体験イベントに当社より三名参加し、『紙のリサイクル屋さん』として、古紙の選別作業や紙漉きを体験してもらいました。未来のリサイクル屋さん、待ってます！



屋根、洋服掛け、犬小屋を作ったグループもありました